ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区

四国ライオンズの「これから」…4

「何のメリットがあるんですか」と問われて

336 複合からの分割・独立への提言と試案

④

ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区

複合地区分割検討委員会

委員長　川辺 信郎

(2024/11/09)

「楽しい例会にしましょう」とよく言われる。
この間口は広く、様々な切り口がある。
酒類と共に談義し、親交が深まる例会は楽しい。
同時にライオンの原義は「奉仕」である。
奉仕を経験して、楽しい例会と表現できたら
素晴らしいと思う。

1　「メリットがないと意味がない」のか ////

すべての経済活動は損得に準拠している。「得」するからこの事業は進める、これは「損」するから止めておこう。今回、複合地区からの準地区Ａの独立は「損」することか「得」することか、このやり取りがよく俎上にあがる。しかし、この損得判断の材料は多岐にわたり、簡単に答えは出ない。しかし、複合地区分割検討委員会はここに正対する義務があるので、一緒に考えていただきたい。

四国のライオンからは「独立するメリットは何ですか」と直截的に訊かれる。言い換えると「独立して何の得があるんですか」となるだろう。これは、「行動しても得にならない」なら「止めとけ」と、云うことにつながる。

では、「得」を分解してみる。独立したら…、①＊クラブ会費が安くなる　②キャビネット運営経費が抑えられる　③年次大会の登録料を安くできる、など。これらはすべておカネにまつわる「得」となる。しかし、これらおカネの話は不断の努力と工夫が必要で、今の段階で、分割独立したら、「それは必ず保証される得です」と持ち上げることはできないのが正直なところだ。

おカネ以外には①キャビネット構成員の負担を軽くできる　②隣県同士の準地区となれば人的交流が密になる　③キャビネットの固定化を視野に入れることができる　④役職経験を若手に委譲しやすくなる、などが考えられる。

次に「損」（デメリット・リスク）を考えてみる。①更なる会員減を招いた場合、準地区としての体力が維持できるのか　②他の複合と同様な情報を収取できるのか　③ガバナーなどの就任サイクルが短くなるうえで、その人材は足りているのか、などが挙げられる。

また、メリット・デメリットの分岐点は負担するおカネが安くなるか、高くなるかに集中しやすい。だから、①＊のように、クラブ会費が安くできるから「メリット」、会費が高くなってしまうから「デメリット」と簡単に言い切られてしまい、おカネの次の展望と議論ができていない。これは当委員会の反省点であるが、現在、多様な意見をいただき議論の対象としている。

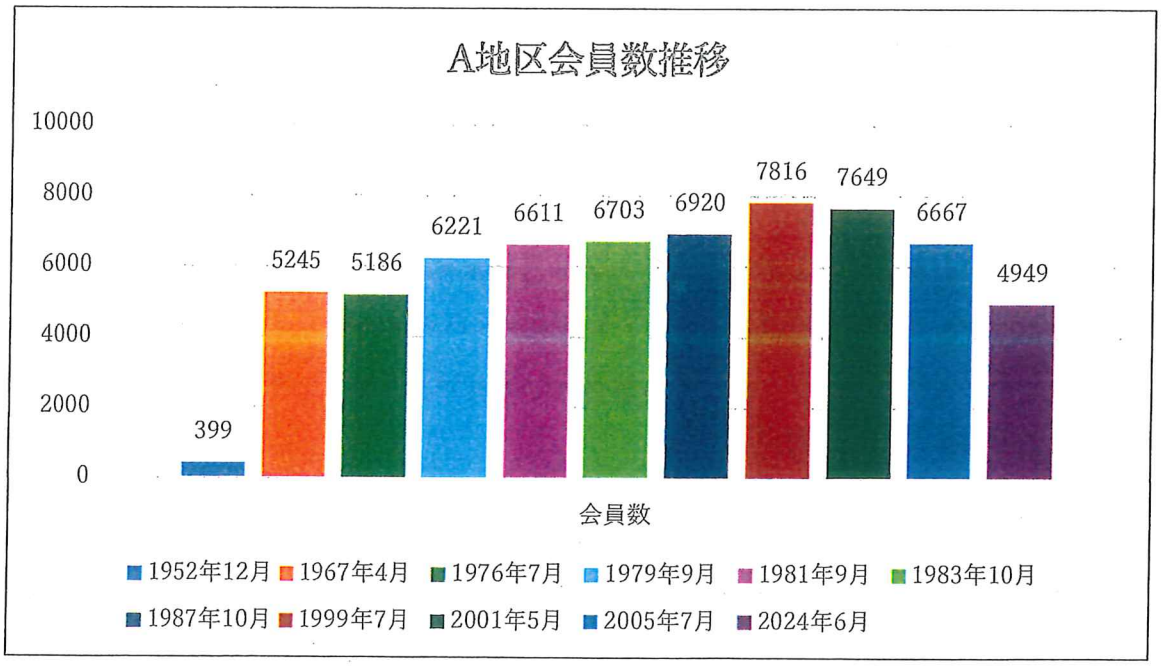
ここで、おカネに関しては複合費にフォーカスしてみる。当委員会では今までに３編の提言書を編集しており、どれにも複合地区費に言及しているが、もう少し踏み込んでみる。おカネを尺度にメリ・デメを考える、それが基軸であることは否定しないし、まして四国だけで複合地区を構成するなら、運営に伴うおカネ周りの議論は避けられない。

2　運営資金は潤沢とは言えない ////

昨年の複合地区年次大会１号議案では、複合地区会費・会員一人当たり１ケ月 300 円で審議了承されている。そのうち 80 円は日本ライオンズへの賛助会費に充てられるので、実質は 220 円である。さらにこの 220 円は、140 円が複合地区運営費、80 円が複合地区大会費となっている。

四国を複合としたら@140 円（現地区会費と同額で試算）×12×5,000 人(仮定)＝8,400,000 円となる。この 840 万円で複合地区を運営しないといけないことになる。（詳細な予算建ては 3 号提言書 6 ページに挙げてあるので再掲はしません）実際、840 万円では安穏とした運営は難しい。その意味で、336 複合から独立すると「四国複合地区会費は安くなります」とは言い切れない。

次に年次大会費を見てみる。現在、複合地区年次大会費は@80 円で、これを四国複合に当てはめると 80 円×12×5,000 人（仮定）＝480 万円での運営となる。この数字では、華美な式典は論外としても、かなり質素な大会となる。もとより、「この予算では困る」より「この予算内でやる」と云う意識付けが必要になる。以上のように、メリットの基準が会費の安さ、としたら、「会費安のメリットはありません」、と言わざるを得ない、この説明が無責任な期待感を拡散させるより真摯的かと思われる。ここで以下のグラフを見ていただきたい。



年代	1952/12	1967/4	1976/7	1979/9	1981/9	1983/10
会員数	**399**	**5,245**	**5,186**	**6,221**	**6,611**	**6,703**
年代	1978/10	1999/7	2001/5	2005/7	2024/6	
会員数	**6,920**	**7,816**	**7,649**	**6,667**	**4,949**	

1952年12月の統計で四国地区は「W2地区・3R・1Z / 2Z 」（当時の日本ライオンズは複合地区として東日本のEAST地区と西日本のWEST地区で構成され、四国はW2地区の3Rに属し、さらに1Z＝高松、徳島、丸亀、観音寺　2Z＝高知、松山、八幡浜、宇和島 とクラブ分けされていた）であり、この時点での四国の会員数は左端の399人であった。その後、1975年3月に日本のライオンは110,000人に達し、翌年クラブ数も2,000クラブが登録されている。

そして、同年6月に、302Eと302Wの各複合地区が分割され、今の原型となる8複合体制がスタートした。いわゆる336－A・B・C・Dの複合地区の形態は約50年間、変化していない。いま風に云うと、「アップデート」されていないことになる。さすが50年間、不動の組織は制度疲労を起こし、会員の意見も敏感に吸収できない組織となっていないか…、50年前に作られた組織が今の状況に対応しきれているのか、そう、誰しもが疑ったことがあるのではないか…、そんな自問に「今こそ、答えを出しましょう」と促すのも、今回提案する理由のひとつである。

では、何が硬直化し、何が意見の流通を阻害しているのか、を考えていただきたい。もう一度グラフを見てみる。A地区の会員数は1999年7月の7,816名でピークを打ったと思われる。それ以降の漸減は周知のとおりで、既発の3編にも度々書いてきた。しかも、A地区組織はRとZの再編はあっても県を横断した再編は成されていない。

ある意味A地区も50年前のママだ。と云うことは、7,800名の会員数時代の組織で私たちは今も活動していることになる。大きな車は大きな排気量が要る、大きな排気量は多くの燃料が要る。そして、1999年には、その燃料は賄えていた。しかし、2024年は5,000名を割っている現状だ。にもかかわらず、私たちは今も、大きな車に乗っている。

私たちは7,800人が乗れる大型バスではなく、5,000人が乗れる中型バスでいいのではないか。複合分割検討委員会ではこの経費部門について、度々議論を集中させてきた。

毎年のガバナーは、キャビネット運営に細心の注意を払ってくれている。それは、いただいた会費の有効な使い方だ。しかし、組織（排気量）が大きいゆえに、どうしても運営にもおカネがかかるし、「始末しましょう」にも限界がある。コピー1枚にもおカネ

がかる。同時に現複合の一員である限り、単独行動にかかる制約は多い。いま、この縛りから解放されて中型バスに乗り換えないとムダな燃料を浪費し続けることになる。

3　中型バスをどう乗りこなすか ////

しかし、中型バスにしたところで、燃料は要る。そこで以下の仮定を試みる。

① 四国を東の準地区（香川・徳島）と西の準地区（愛媛・高知）の2準地区体制にして、この2準地区で複合地区を構成する、この構想は述べてきた。この構成は準地区キャビネットを固定化することを可能にする。毎年、キャビネットが変わるから、人も変わり、備品を購入する。毎年のリセットは無駄な予算を余儀なくされている。そして、蓄積された知財も継続されず、毎年、一からやり直している。

　ここで節約された資源を会員の学習資財に振り向けることができるし、奉仕の原資にすることもできる、この循環は独立するメリットではないだろうか。

② 年次大会を考えてみる。一つの案は、「準地区東」と「準地区西」を同一日、同一会場で開催する試案だ。東を午前中に、午後からは西、それぞれが大会を開催する。二つの準地区年次大会が施設面ではワンセットで完結する。これは開催経費の節約になるだけでなく、人的作業の負担も軽くなる。しかし、ここには「手弁当」意識も期待したい。すなわち「キャビネットが何をしてくれるか」から「キャビネットに対して何ができるか」と意識の改革をお願いしたい。幸いに現 A 地区には、この手弁当意識で大会を支えてくれる会員が多くいる。この方々の奉仕マインド無しには分割独立後の四国複合は前進できない。四国複合年次大会も前夜祭を後夜祭として、大会と親睦を一日で完結させることも可能ではないか。

③ 跛行性はあるが、毎年のキャビネト予算では500万から700万円の「旅費」が計上されている。予算額が執行額を上回ったり、その逆の年もある。それだけ、「旅費」と云う費目は意外に把握しきれない一面があるのだろう。また、年次大会も含めた経常会計予算額が5,200万円のうち、500万円が旅費予算として1割強が充てられている。さらに、コロナが5類に移行した現在、旅費が節約できる余地は少ない。そこでキャビネット会議に要する旅費を見てみる。

キャビネット会議での旅費　JR県庁所在地駅　　円（片道）							
愛媛キャビネットの場合	↔	徳島	8,900	香川キャビネットの場合	↔	徳島	2,840
	↔	高松	6,160		↔	松山	6,160
	↔	高知	9,890		↔	高知	5,390
高知キャビネットの場合	↔	徳島	5,830	徳島キャビネットの場合	↔	高松	2,840
	↔	高松	5,390		↔	松山	8,900
	↔	松山	9,890		↔	高知	5,830

準地区東（香川・徳島）の場合、交通費は 2,840 円で済むように見えるが、地区費の収入も減るので、単純に好材料とはできない。しかし、5,000 人からの収入で３県に旅費配分するより、2,100 人からの収入で隣県１県に配分する方が旅費は抑えられるのではないだろうか。そして、宿泊費もなくなるかもしれない。これは個々クラブの出費抑制にもつながる。

現複合からの分割独立と A 地区の再編は一体で考える必要がある。それは現複合の一員のままだと変革の機会が得られない。と云うことは「黙っていては変革できない」と云うことであり、四国ライオンの将来に責任を持つのは今の四国ライオンの責務と言える。また、大きい躯体を実際の運営能力サイズに合わせるチャンスは、独立して同時に手に入る。独立せずに組織だけ変えても弥縫策に終わり、躯体は大きいままで、336 複合の中で粛々と体力だけを消耗してしまう。

四国ライオンズの改革論議は赤ちょうちんの場でやり合う時期は過ぎたと思う。多くの四国ライオンは「このままではまずい」と思っていても、やめられない、とめられない。この負のスパイラルから抜け出る時期が、いまここに来ている。それを理解してもらうことが今回の「メリットです」と付言させていただく。5,000 人会員となった、（なってしまった）この数字が示している「不都合な真実」…、この事実を地区年次大会で上程、議論されることを望んでいる。また、この委員会は異論を受け止め、少数意見に配慮する度量も持ち合わせていることもお伝えしたい。

（ありがとうございました。）

© 2024 Satomi. All Rights Reserved

We make mark on the Shikoku Lions.

Lions Clubs International